

— 解 説 —

藤山 直之 (北海道教育大学教育学部旭川校理科教育専攻・准教授)
(北海道大学理学部同窓会: 動物 62 期, 動物 M40 期, 生科 D4 期)

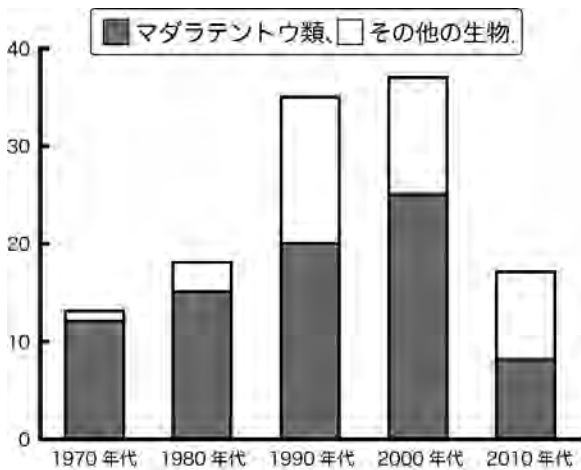
片倉晴雄先生は1947年12月21日に東京でお生まれになりました。1970年3月に北海道大学理学部生物学科(動物学専攻)を卒業された後、同大学大学院理学研究科動物学専攻修士課程へと進学、1978年3月に同博士課程を単位取得退学され、同年7月16日に北海道大学理学部の助手として採用されました。1980年6月30日に学位論文“Classification and evolution of the phytophagous ladybirds belonging to *Henosepilachna vigintioctomaculata* complex (Coleoptera, Coccinellidae)”で理学博士を取得されています(なお、この学位論文はほぼそのままの形で‘Katakura (1981) *J. Fac. Sci., Kokkaido Univ., Ser. VI, Zool.* 22: 301-378’として公表されています; 本著作論文集 pp. 159-236 に収録)。1982年6月1日に同学部講師に、1988年5月1日には助教授に昇任されました。北海道大学の改組に伴い、1995年4月1日からは大学院理学研究科助教授となられ、1997年4月1日に教授に昇任されました。再度の改組により、2006年4月1日に同大学院理学研究院の教授となられました。北海道大学で定めている定年年齢は63歳ですので、片倉先生は2011年3月末日に定年を迎えられました。大学が設定している雇用延長制度を活用され、2011年度の1年間は特任教授を務められました(なお、2011年度には北海道大学名誉教授になられています)。この著作論文集は片倉先生のご退職を記念して、加藤徹(北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門多様性生物学分野・助教)、松林圭(シェフィールド大学動植物科学部門進化生物学研究室・日本学術振興会海外特別研究員; 理学部同窓会: 生科7期, 生科M11期, 生科D13期)、松林(太田)有理(日本動物学会 Zoological Science 編集事務局・編集事務員; 生科6期, 生科M10期, 生科D15期)、菊田尚吾(北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門多様性生物学分野・専門研究員; 院自D3期)、多田泰紘(北海道大学アカデミックサポートセンター・アカデミックナビゲーター; 生科10期, 院自M1期, 院自D4期)に私を加えた有志によって、2013年12月末までに発表された片倉先生の研究業績を学術論文を中心にまとめたものです。

片倉先生は、博士課程在籍時の1973年に日本昆虫学会誌上に発表された論文“北海道の EPILACHNA 属テントウ 2 種の分布と型について



片倉先生による初講義の風景

での新知見”(片倉(1973) *昆虫* 41: 234-237; 本著作論文集 pp. 4-7 に収録)を皮切りに、今日までの間、100編を遙かに超える数の原著論文を発表されてきました(共著論文を含む)。とりわけ、1989年に *Evolution* 誌に発表された論文“Reproductive isolation by host specificity in a pair of phytophagous ladybird beetles”(Katakura *et al.* (1989) *Evolution* 43: 1045-1053; 本著作論文集 pp. 421-429 に収録)に代表される、マダラテントウ類(食植性テントウムシ類)を対象とした生殖隔離と種分化に関する進化生物学的研究をメインテーマとされ、その成果は *Evolution*, 3rd edn. (D.J. Futuyma; Sinauer Associates, 2013) や *Evolution* (N.H. Barton *et al.*; Cold Spring Harbor Laboratory, 2007) といった進化学の著名な教科書に引用されている事実が示す通り、世界的に高い評価を受けています。1980年代の後半からは日本国内のみならずインドネシアをはじめとする東南アジア熱帯域に生息するマダラテントウ類へと研究対象を広げられ、海外をフィールドとした研究活動にも精力的に取り組まれると同時に、インドネシアにおける研究者の養成という点でも多大な貢献をされてきました。また、研究対象はマダラテントウ類に限定されず、地表徘徊性甲虫群集・ハムシ類・食糞性コガネムシ類・シデムシ類・ハチ類・イワハムシ・クワヒョウタンゾウムシといった昆虫類、ヤスデ類・ヨコエビ類・ダニ類などの昆虫以外の節足動物類、ひいてはミミズやカタツムリ、アザミ類と、非常に多岐に渡っています。片倉先生が発表されてきた学術論文を時系列順に並べてみると、マダラテントウ類に関する研究成果を着実に公表しながら、他の様々な生物に関する



片倉先生が発表された論文数の推移

(1973年6月～2013年12月まで。共著論文を含む。)

報告が増加していったことがわかります。これらの研究成果を一堂に集めた本著作論文集からは、片倉先生が、動物が示す変異に対して強い興味をお持ちになっており、様々な生物を研究対象としながらも、そこには生物集団の分岐と多様化という一貫した着眼点があることを明確に理解することができます。

さて、この場をお借りして、片倉先生の近況についても少々ご報告させていただきます。片倉先生は、2011年3月に定年を迎えられた際にそれまで使用されていた研究室を引き払われましたが、同年4月より同じ理学部5号館5階のとある場所にコンパクトな研究スペースを構えられました。2011年度には片倉先生を研究代表者とした科学研究費補助金(日本学術振興会)による研究課題「東南アジアで進行中のニジュウヤホシテントウの食草変換: その時間的・空間的動態」が採択され、2013年度末までの研究計画が立ちました。2012年度以降は、以前から担当されていた北海道大学総合博物館の資料部研究員という肩書きを併用されながら研究を展開されています。

片倉先生が‘教育者’としての任を全うされた2011年度の終わりには、片倉先生のご退職をお祝いする幾つかのイベントが催されました。3月30日の日には、北海道大学理学部大講堂において「片倉研究室大同窓会」が開催され、各地から多くの同窓生が馳せ参じました。この同窓会は、それぞれの世代の有志によるスクリーンを用いたプレゼンテーションによって、研究室の歴史を振り返るという様式で行われましたが、何より、プレゼンターの一人として片倉先生にもお話し頂けたのは、私たちにとってとても幸せなことでした。出席された皆さんは懐かしい想いを抱きつつも、時の流れの速さを痛感されているように見えました。また、同窓会の最後には、片倉研究室同窓会歌「ハロー!旅立ち」が披露されましたが、皆で合唱す



ご退職記念パーティのひとコマ (2012年3月30日)

ることによって、研究室の幕引きを発展的解消として理解しようという心の動きがあったように感じています。この日の夜には、同窓会での興奮もそのままに、北海道大学構内に位置するファカルティハウス「エンレイソウ」において、ご退職記念パーティーが開催されました。出席者には、記念品として片倉先生が研究されてきた生物の図柄をあしらった榎が配られ、樽酒がふるまわれました(なお、本著作論文集の表紙はこの榎に用いられたデザインを転用したものです)。このパーティーには多くの同僚や共同研究者の方々、片倉研卒業生の皆さんが出席され、大変賑やかで心温まるセレモニーとなりました。翌3月31日には、片倉先生と特に親交が深い顔ぶれで‘ユンニの湯(夕張郡由仁町)’へと一泊の温泉旅行に出発しました。参加者の何人かがお子さん同伴であったこともあり、こちらも大変和やかな旅行となりました。夜の宴会ではカラオケで大いに盛り上がり、片倉先生と一緒に楽しく美味しいお酒を呑むことができました。

やや余談となりますが、片倉先生の研究室で飼われており皆の人気者であったフトアゴヒゲトカゲの‘ポゴナ’君は、2010年の10月に旭川市にある私の自宅へと引っ越してきました。ポゴナ君も最近はめっきりと歳をとり、歩くことが少し苦手になっ



“ユンニの湯”での集合写真 (2012年4月1日)



“ポゴナ” 近影 (2013 年 12 月 22 日)

たと共に、うとうとと微睡む時間が長くなってきています。そんなことから、時が経つのは本当に速いものだと痛感している今日この頃です。

今年の 12 月前半には、前述の研究課題「東南アジアで進行中のニジュウヤホシテントウの食草変換：その時間的・空間的動態」の野外調査として、私は片倉先生と一緒に 2 週間にわたってタイとマレーシアを訪れる機会に恵まれました。その間、片倉先生とは、研究や仕事だけではなく、先達や後進、生活や政治、文化と歴史、病気や食べ物、音楽や映画など、本当に色々なことについてお話しすることができました。今年に入って、片倉先生は、この研究課題が終了する 2013 年度末をもって理学部 5 号館に構えておられる現在の研究スペースを引き払うと共に、ご自身の中心的な研究テーマであるマダラテントウ類の分類学的研究を除いて、他の研究からは身を引くことを宣言されました。私たちにとっては本当に寂しいことなのですが、思い返せば、私は、全く至らない卒業生として片倉研究室に配属されて以来、大学院生・研究生・ポスドクとして本当に多くのご指導を賜ることができたと共に、その後も共同研究者の一人として、20 年以上におよぶ時間を片倉先生と



クアラルンプール近郊で野外調査中の片倉先生
(2013 年 12 月 8 日)

一緒に過ごすことができました。私は、片倉先生と一緒に最も多くの時間を過ごすことができた教え子の一人に違いありません。この場をお借りして、長きにわたるご指導に厚く御礼申し上げます。片倉先生の今後ますますのご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。

僭越ながら、片倉研究室卒業生を代表して。

2013 年 12 月 27 日

N. Fujiyama

※本著作論文集に収録されている学术论文の一部については、オリジナルの別刷りを私の研究室で保管しています。ご所望の方は下記メールアドレスまでご連絡下さい。

naofuji1969@gmail.com

ハロ！旅立ち

片倉研同窓会歌

作詞・作曲 藤山直之

あきのはじめのこもりのおなよきにせすに
 ねよねよかみんそれおなよきにせすに
 のとあふりのよなよねじょうねつがかりかた
 ぶんあるいで二なせたりわらえ一たねさ
 いくたのーおもいでーさきにほくらはまゆめをみる
 ハロ、ハロ！ はれやかにゆうだいにいまたびだと
 うたいよにむかってー

片倉研同窓会歌

ハロ！旅立ち (作詞・作曲 藤山直之 二〇一二年)

- 一、春の木漏れ日のような優しさがあったよね
 時間も気にせず語りあつたからね
 夏の土砂降りのような情熱があったよね
 ずいぶん歩いてなせだか笑えたよね
 そんな幾多の思い出の先に
 僕らはまた夢をみる
 ハロ！、ハロ！
 晴れやかに雄大に
 今、旅立とう太陽に向かって
- 二、秋の夕暮れのような静けさもあったよね
 皆それぞれに闘つたんだよね
 冬の朝焼けのような凛々しさがあったよね
 強い心で迎つたのさ
 そんな幾多の思い出の先に
 僕らはまた夢をみる
 ハロ！、ハロ！
 晴れやかに雄大に
 今、旅立とう太陽に向かって
- ハロ！、ハロ！
 晴れやかに雄大に
 今、旅立とう太陽に向かって 太陽に向かって…



「片倉研究室同窓会 (2012年3月30日)」で披露された同窓会歌

©Katukuma's Lab. & Neighbors 2012

●予定表

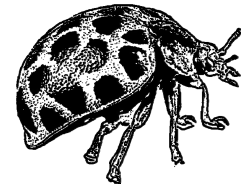
月/日	時間	イベント	場所
3/31	13:00	集合	北大博物館前
	13:30	出発	(送迎バス)
	14:30頃～	到着 自由時間	ユニニの湯
	18:00～20:00	宴会	宴会場
4/1	7:00～9:00	朝食(バイキング)	レストランゆにごこち
	10:00	チェックアウト	
	10:30	出発	(送迎バス)

片倉晴雄先生退職記念

温泉旅行のしおり

●宿の所在地・連絡先

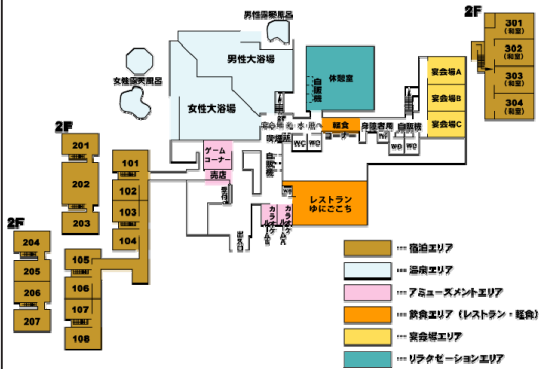
北海道の日帰り温泉・宿泊温泉施設 ユニニの湯
〒069-1218 北海道夕張郡由仁町伏見122番地
TEL:0123-83-3800 FAX:0123-83-3811
URL: <http://www.yunni-spa.com/>



日程:2012年3月31日(土)～4月1日(日)

場所:ユニニの湯(夕張郡由仁町)

●館内の施設



●大浴場

時間:15:00～24:00/翌6:00～8:00

【ユニニの湯の泉質について】

- 泉質 ナトリウム炭酸水素塩・塩化物泉(アルカリ性低張性冷鉱泉)
- 旧泉質名 含食塩-重曹泉
- 特徴 炭酸水素イオンが多く含まれぬめりがあり、肌がすべすべになる事から、俗に「美人の湯(美肌の湯)」といわれる温泉です。また、地下1,300mより湧き出る温泉はコーヒー色をしています。泥炭地帯に位置しており地下水が数千年前に堆積した石炭層に浸透してこの色がうまれているとか・・・太古の浪漫を肌感じてみてください。
- 適応症 慢性皮膚病・冷え症・神経痛・筋肉痛・関節痛等
- アメニティ リンスインシャンプー、ボディソープ、ドライヤー

●部屋割り

(敬称略・五十音順)

部屋番号	タイプ・人数	メンバー
30x	和室5	太田・ディアン・徳永・ハルティニ・高橋
101	トリプル3	有田・伊藤・山田
102	ツイン2	嶋田・吉原
103	ツイン2	多田・平野
104	ツイン2	青木・鈴木
201	ツイン2	福田・山下
202	和洋室5	角井・菊田・甲山・須賀・松林
203	ツイン2	桑島・蛭田
105	トリプル3	カホノ・鶴崎・藤山
106	ツイン1	片倉
107	ツイン2	高久(元)・高久(彩)
108	トリプル3	松原・ディック・増田
204	ツイン2	相澤・山崎
205	ツイン2	富樫・西田
206	ツイン2	平井家2名
207	ツイン3	加藤家3名

※202 和洋室(ベッド2台と和室に布団)は二次会利用部屋になります。和洋室で先に寝たい方は適宜ツインルームの方と交換してください。

【お部屋の設備】

バスタオル・フェイスタオル・歯ブラシ・石鹸・かみきり・浴衣・羽織・足袋・TV・冷蔵庫・金庫・トイレ(全室ウォッシュレット装備)・冷暖房

温泉旅行(2012年3月31日～2012年4月1日)のしおり

